



集落支援だより

皆さん こんにちは！

地域おこし協力隊の佐々木です。

今月は、地域づくりに関する学びや地域で受け継がれてきた

伝統行事「歳の神」についてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当

ささき かずよ
佐々木 和代 隊員

地域コミュニティ連携 フォーラムに参加

12月23日、福島市で開催された持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ「地域コミュニティ連携フォーラム」に参加しました。

フォーラムでは、地域づくりは短期間で成果を求めるものではなく、合意形成や人材育成、関係性づくりといった地道な積み重ねが重要であることを学びました。特に、経済的な効果だけでなく、人の思い・やりがいといった「心の利益」も大切に、地域の実情に合った規模で活動を続けていく「縮充^{しゆくじゆう}」の考え方が印象に残りました。



事例発表では、県内3つの地域運営組織が取組を紹介し、奥川地域づくり協議会からは事務局長の岩橋義平さんが登壇しました。奥川の関係人口づくりや大学・企業との連携について多くの関心が寄せられ、グループセッションでは活発な意見交換が行われました。今後も集落訪問を重ねながら一人一人の声に耳を傾け、地域とともに歩み、学びを実践につなげていきたいと思えます。

歳の神に参加

1月15日の小正月に合わせ、町内の各地で伝統行事「歳の神」が行われました。



地域によつては「どんど焼き」とも呼ばれ、形や名称はさまざまですが古くから受け継がれてきた年中行事のひとつです。近年は、生活様式の変化により15日前後に実施される地区も見られるようになっていきます。準備では、初めてかんじきを履きました。雪を踏みしめながら歩く感覚は新鮮で、かつての冬の暮らしや、今も受け継がれる知恵に思いをはせる貴重な時間となりました。火を囲みながら、しめ飾りを焼く由来や、昔から続く地域の習わしについて話を聞き、燃え上がる火で焼いたお餅を味わううちに自然と会話の輪が広がっていました。

2年目に向けて

地域おこし協力隊として集落支援の活動を始め、あつという間に1年が経ちます。

春にこの町へ来た日のことを思い返すと、季節がひと巡りした今、たくさんの出会いと学びに支えられてきた1年だったと感じています。

日々の暮らしの中で当たり前のように受け継がれてきた知恵や、人と人とのつながりの温かさに触れるたびに「地域で生きる」ということの奥深さを実感しました。

また、「そんな工夫があるんだ」と驚かされる場面も多く、地域での暮らしを通して自分自身の視野や価値観が大きく広がった1年でもありました。

まだ学ぶことも多くありますが、2年目も引き続き、地域の皆さんの経験や知恵に触れながら、ともに考え、少しずつでもお役に立てるよう頑張ります！今後とも、どうぞよろしくお願ひします。